

特別冊子

あなたのイチアイデアが、世界をちょっとだけ、面白くする。

# イチBizアワード

2025



特別対談

地理空間情報×AIが描く、  
日本の未来

一次審査通過アイデア紹介

地理空間  
情報 × ミライ

月女神イチ

特別インタビュー

スペシャルサポート・VTuber



# イチBizアワード 2025

## Contents

### 1 寄稿

イチBizアワードを通じた、地理空間情報の持続的発展  
内閣総理大臣補佐官 宇野善昌

### 2 特別対談

地理空間情報×AIが描く、日本の未来  
国土交通省 政策統括官付地理空間情報課長  
(併)内閣官房 地理空間情報活用推進室参事官 境崎正俊  
LocationMind株式会社 Founder／代表取締役CEO 桐谷直毅

### 6 イチBizアワードとは

地理空間情報×アイデアで描く新しい未来

### 7 一次審査通過アイデア紹介

ビジネス部門・アイデア部門・不動産情報活用部門

### 11 イチBizアワード2024最優秀賞アイデア紹介

水田雑草対策ロボット「ミズニゴール」  
株式会社ハタケホットケ

### 12 特別インタビュー

地理空間情報を使ってやさしい未来をつくろう!  
イチBizアワード2025 スペシャルソーター VTuber 月女神イチ



# イチBizアワードを通じた、 地理空間情報の持続的発展

宇野 善昌 内閣総理大臣補佐官



## 政府の取組

2007年の地理空間情報活用推進基本法制定以降、政府では、おおむね5年ごとに「地理空間情報活用推進基本計画」を策定し、準天頂衛星「みちびき」や電子国土基本図の整備、地理空間情報の社会実装などを進めてきました。今年度は、「地理空間情報活用推進に関する行動プラン2025」に基づき、衛星コンステレーション、防災、物流、カーボンニュートラル、産業活性化、国際展開など幅広い分野で施策を進めているほか、農林水産業のプロジェクトやスタートアップ支援強化などの新産業創出、違法漁業対策や災害通報サービスなどのG空間技術の国際展開にも取り組んでいます。さらに、政府の「骨太の方針2025」では、地理空間情報をDXの共通基盤として位置づけ、電子基準点や電子国土基本図の3次元化など国土情報基盤の整備を強力に推進することが明記されました。こうした取組は、次期基本計画策定に向けた議論にもつながり、急速に変化する社会や技術に対応するための長期的な視点を示しています。これらの政策は、アワードで生まれるアイデアの社会実装を後押しするものです。

## イチBizアワードの意義と広がり

イチBizアワードは、地理空間情報の可能性を最大限に引き出し、社会課題の解決や新しい価値創出を目指す取組です。2022年の開始以来、着実に広がりを見せ、第4回となる今年度は、応募総数が昨年度から100件以上増加しました。スタートアップや学生、企業など幅広い層からの参加が、地理空間情報の活用に対する関心と期待の高まりを示しています。

さらに今年度は、国土交通省と連携した新たな試みとして「不動産情報活用部門」を設け、不動産情報ライプラリのオープンデータを活用したアイデアを募集しました。この部門では、「不動産情報ライプラリ×教育、×防災、×AI」など、異分野同士の掛け

合わせによる挑戦が数多く見られました。こうしたクロスオーバーこそが、新しい価値を生み出す原動力となります。ビジネス部門やアイデア部門では、さまざまな課題を抱える我が国の林業に対して「みちびき」のCLASを活用した植栽位置の誘導やデータ活用によって効率化を図る具体的なビジネスアイデアや、AIで青信号を予測して信号待ちを最小化したナビゲーションを提供するといった新たなアイデアまで、地理空間情報を活用した幅広い提案が寄せられています。こうした挑戦の場が継続的に広がっていることは、日本のイノベーションを加速させる大きな力となります。产学研官の協働が不可欠であり、官民が一体となって取り組むことで、地理空間情報の価値はさらに高まるでしょう。

## 未来へのメッセージ

本アワードに集まったアイデアは、防災や産業の活性化、国際展開を含む強靭で持続可能な社会の実現に向けた第一歩です。過去の受賞者におかれましても、農業DX、脱炭素、災害対応、教育、環境保護など幅広い分野で事業化や実証実験を進めており、地理空間情報の活用が社会課題解決に直結していることがうかがえます。今後も官民が一体となり、データとアイデアで未来を描き、地理空間情報の社会実装を加速させることを期待しています。

受賞された皆様に心よりお祝い申し上げます。

### Profile



1964年千葉県出身。89年建設省入省。国土交通省で都市局長、大臣官房長、復興庁にて事務次官を歴任。2025年10月より高市内閣にて内閣総理大臣補佐官(国土強靭化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)。同年より、政府の地理空間情報活用推進会議で議長代理を務める。

# 地理空間情報×AIが描く、

## 日本の未来

墳崎 正俊

国土交通省 政策統括官付地理空間情報課長  
(併)内閣官房 地理空間情報活用推進室参事官

桐谷 直毅

LocationMind株式会社 Founder／  
代表取締役CEO

聞き手：イチBizアワード事務局 有限責任監査法人トーマツ 地域未来創造室 大隈 裕文

デジタル化が進む現代社会において、ますます重要性が増している「地理空間情報」。

他の情報やテクノロジーとかけ合わせることで多くの課題解決・ビジネスに役立つことが想定されていますが、地理空間情報を十分に活用するためには何が必要で、何をすべきなのでしょうか。

内閣官房で地理空間情報の活用推進に携わる墳崎正俊氏と、イチBizアワード2025のゴールドスポンサーを務めるLocationMind代表の桐谷直毅氏に官民それぞれの立場から、“地理空間情報×AI”がもたらす日本の未来像を語り合っていただきました。

### 生産年齢人口減少への切り札 「地理空間情報の活用」

— 本日は、官民それぞれの視点から、地理空間情報を活用した社会課題解決・ビジネス創出の可能性についてお話しいただきます。まずは墳崎さんから、地理空間情報の活用に関する政策とその背景をご紹介いただけますか。

**墳崎氏**：日本社会は今、人口減少という、非常に大きな転換点を迎えています。2020年の生産年齢人口は7,500万人でしたが、2032年

には7,000万人、2043年には6,000万人まで減ると言われています。

すでに建設現場や運輸業などでは人手不足が大きな懸念となっており、一人ひとりの働き手の生産性を上げることが何より重要です。そのためには、テクノロジーを「新しいパートナー」として活用していくことが鍵になると考えています。

地理空間情報はその基盤となるものです。2007年に制定された「地理空間情報活用推進基本法」以来、関係省庁で連携して、政府として環境整備を進めてきました。測位情報をはじめとする衛星データや地図データに、官民の各分野のデータを重ね合わせてさまざまな現場で活用することで、一人ひとりが新しいテクノロジーを活用して働き、生活する基盤がいいよ整ってきていると感じています。

**桐谷氏**：今お話し頂いたように、日本には非常に質の高い地理空間情報の基盤があります。道路や交通、人口動態、地図など、国が整備しているデータの精度は世界的にも高いものです。

一方で、2007年に法律ができてから約20年経ち、その間に技術は目覚ましい進化を遂げました。特に、測位衛星やスマートフォンの普及により、位置情報を誰もが利用する時代になりました。しかし今は、位置情報そのものの信頼性や安全性が問われる時代でもあります。

### Profile

墳崎 正俊

国土交通省 政策統括官付地理空間情報課長  
(併)内閣官房 地理空間情報活用推進室参事官

2001年国土交通省入省。都市局、不動産・建設経済局、公共交通政策部門などを経て、2025年より現職。

LocationMindでは、準天頂衛星システム「みちびき」に、不正な位置情報を排除する技術を提供していますが、国土は国の基盤ですので、国がその状況をきちんと把握することが不可欠です。地理空間情報を外国企業に委ねてしまうと、国としてのデータ基盤が空洞化してしまう恐れもあります。私たちは、こうした基盤を国内で守り育てるため、研究開発を続けています。

技術は急速に進歩していますから、自動運転や無人機、さらにSociety 5.0\*といった概念まで、地理空間情報にかかわるテーマが横串でつながるように、今後は標準化も必要だと思っています。政策サイドにおいても、こういったことを検討いただけすると有り難いと考えています。

\*Society 5.0:サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新しい社会のビジョン。

— LocationMindさんでは、測位衛星による位置情報の正確性を担保する技術のほかに、ビッグデータの分析・提供なども行っているそうですね。

**桐谷氏**:はい。スマートフォンや自動車、船舶の位置情報データを世界約150カ国分取り扱い、国内外に提供しています。人流だけではなく、「自動車流」「船舶流」もあるということですね。

ですが、日本に暮らす1.2億人と、8,000万台の車のデータ全部がデジタル化されているかというとそうではありません。データとして手に入るのは数%で、残りの90%以上は推定しなければなりません。

例えば、朝は家にいても、日中は別の場所にいて、さらにいろいろな交通手段を使い、また家に帰る。こういった動きは、現状、統計だけでは見えません。正確な人流をどう掴むかは全世界の課題ですが、入手できるデータから欠けたデータを生成することもできます。当社はこの分析において世界最先端グループの一つです。こういった領域の技術で、日本はもちろん世界で戦っていきたいと思っています。

## Profile



**桐谷 直毅**

**LocationMind株式会社 Founder／代表取締役CEO**

東京大学経済学部卒業後、ゴールドマン・サックスの投資銀行部門にて大型のIPOやクロスボーダーM&Aのアドバイザーに従事。独立後、大学発ベンチャーの支援に注力するベンチャー投資企業Angel Bridgeを創業する。複数の起業を行うエンジェル投資家／シリアルアントレプレナーとして活躍。2019年2月にLocationMindを創業。

## AIとかけ合わせ、地理空間情報をもっと使いやすく

— 現在、最も注目されているテクノロジーは生成AIですが、地理空間情報ではどう活かせそうですか。

**桐谷氏**:生成AIには言語や画像、音声を扱うものなどさまざまなタイプがありますが、地理空間情報、つまり、地図や、人・車・船の動き、天気や施設情報など、「いつ」「どこに」「何があるか」というデータを扱い空間全体を表現する「地理空間情報生成AI」は、まだ確立されていません。

こうしたAIモデルの萌芽が感じられるのは、ロボットが現実世界を把握するためにAIを活用するフィジカルAIという領域です。ロボットにAIを搭載した実証などがもう始まっていますが、ロボットは自分の周囲のエリアくらいしか把握できないと思われます。一方、地理空間情報AIはもっと俯瞰的に、社会や国全体をとらえるものです。

**墳崎氏**:地理空間情報分野では、統合型地理情報システム(GIS)が出始め、各自治体で分野別に整備してきたバラバラだったシス

テムの統合が始まりました。その結果、自治体では一つのシステムに多様な分野のデータが溜まり、コスト削減にもなりましたが、異なる分野のデータをかけ合わせて新たなインテリジェンスを得る、次の動きにつなげる、という成果が出たかというと、まだそこまでは至っていないというのが正直なところです。

GISソフトをはじめ地理空間情報を使いこなすという意味では、まだまだ専門家以外の方にはとつづきづらく特殊な世界のイメージがあると感じています。AIによって地理空間情報を誰もが簡単に使えるようにで

～被災後の復興度の指標としての位置情報データ～

## 輪島と株洲の人口推移の分析

- ・石川県では住民票の移動数を毎月発表
- ・実際は県公表値よりも人口が流出しているのではないか？という仮説を位置情報分析で検証
- ・モバイルGPSデータの移動履歴から居住地・勤務地を推定して人口を算出



2024年能登半島地震後の輪島市と株洲市の人口推移を表したLocationMindの分析例。人流データを時系列で把握することで、災害時の避難や復興状況を定量的に可視化し、意思決定の支援をしている

きれば、次のステージに進んでいくのだろうと、桐谷さんのお話を聞いて思いました。

また、そのときには個別のシステム同士が相互にデータを取り出せる相互運用性、相互接続性を確保することも非常に重要だろうと考えています。

— AIで地理空間情報が使いやすくなれば、まちづくりなども変わりそうですね。

**墳崎氏**：そうですね。昭和から平成にかけての「まちづくり」というと、更地に大規模な施設を建てるような、一からまちをつくる方法が主流でした。でも、今はどちらかというと、できあがったまちを少しづつ変える、小さな一歩を連鎖的に波及させていくというのが、特に人口が減少している地方都市では現実的な解だと思います。

大規模な投資は後戻りが難しいですから、専門家が非常に精緻なシミュレーションをするモデルになりますが、これからは、できるところから少しづつ連鎖させていく、軽く・安く・早く進めるのが主流になっていくはずです。そのときには、シミュレーションも普通の人が簡単に、クイックに使えることが必要で、そういう環境を整えていくことがますます重要になると思っています。

**桐谷氏**：私たちは、将来的には皆さんのがジオスペシャル・ネイティブになる、つまり、専門知識がなくても、子どもたちの世代は「お父さん、こういう分析ができちゃうよ」と地理空間情報を使えるような世界をつくりたいと思っています。

そのためには、専門家がやっていることを少しづつAIに乗せていく、また、データの整備をした人にお金が還流して、また新しいデータがつくれ、新しいデータがAIに接続されるというエコシステムをつくる必要があります。AI開発者・データ提供者・利用者が3方よしになるようなシステムをグローバルで構築しようと思っています。

日本の強みを活かし、  
世界に通用するユースケースを開発する

— 地理空間情報とAIのかけ合わせには大きな可能性がありそうです。桐谷さんは世界で勝負するともおっしゃっていましたが、日本の勝ち筋はどこにあると考えていますか。

**桐谷氏**：高度な福祉レベルを達成し、交通渋滞も少なく、治安もいい。日本が先進的な国であるということは大きな強みで、これまでに日本が築いてきた知見は輸出可能だと思っています。

例えば、日本には駅ビルがありますが、意外と海外では見ません。駅ビルというインフラ・ビジネスモデルは輸出できるのではないかと思います。自家用車に頼らない生活を提供できる日本の鉄道



網システムや、その沿線で展開される不動産ビジネスもそうです。

同時に、人口が3分の2に減る中で、1人が5人分、10人分の仕事をできるようにしなくてはいけませんから、この知見をデジタル駆動のシステムにしないと、輸出はできません。先人が築いたナレッジをAIに乗せ、さまざまなエージェントモデルをつくって知見や仕組みを展開する。これまで、アナログで知見の伝達やシステムの展開が行われてきたと思いますが、今後、世界に輸出していくためにはデジタルにすることが必須です。知見をもつ人々がいなくなつ瞬間に、その知見が失われてしまう。それは避けたい負け方ですよね。

逆に言うと、デジタル化・DXができるなら勝てる。こういう知見がない国は多くあります。AI・デジタル技術を活用して日本型のさまざまな仕組みを輸出するという方向性は、可能性があると思っています。

**墳崎氏**：新幹線が2～3分に1本、遅れずやってくることに象徴されるように、日本の経済や社会のシステムは世界に誇る品質です。

海外への売り込みは官民挙げてやってきましたが、ネックは、日本のシステムの品質を支えてきたのは、日本人の几帳面な働き方や高度な技術をもつ職人ゆえによるところだという点でした。

ですが、今、日本国内でも職人技や多くの労働力を投入して高品質のサービスを支えるという体制が成り立たなくなりつつあります。そうすると、データとテクノロジーを駆使してこれに対応しようという動きが進むわけです。今までの暗黙知が形式化されていくことで、国内のシステムを維持するためだけでなく、世界に日本の品質を売っていくチャンスになるのではないかと思います。

官民が連携し、  
データを活用し尽くす環境づくりを

— 地理空間情報を活用したビジネス創出や課題解決のために、官民で連携しなければならないシーンも多そうです。

**桐谷氏**：そうですね。計算機や半導体など、非常にクリエイカルな



分野では、日本もかなり集中投資を行っています。

地理空間情報の活用においても、国の方でユースケース創出やデータ整備などの政策を強化していただけすると、意欲あるグループが待ち構えているのではないかなと思います。

データがなければ、AIはつくれません。データの収集・蓄積を諦めた国からAIを諦めるという状況になりかねず、翻せば、データを整備したところからAIが発展すると言っても過言ではありません。

AIモデルをつくる側からすれば、データがなければ面白くありませんから、データのないところに高度な技術をもつ人は集まりません。また、蓄積されたデータを活用してユースケースを生み出すことに資金が付けば、仕事になる可能性が生まれ、さらには人が集まります。ユースケースがあればニーズも見えてきますし、人や資金が集まるという循環が生まれます。

そういう意味では、ユースケースを表彰してお金をつける「イチBizアワード」は非常によい取り組みだと感じています。

**墳崎氏**：私も官民のデータをどんどん増やしていくべきだと思います。もちろん、データの収集や利用にあたって、セキュリティやプライバシーの扱いを市民の皆さんと議論を重ねることが必要です。

一方で、データ整備するためのリソースをどうやって捻出するか

という議論も必要です。最低限必要なものはインフラとして行政が担う、民間にも裨益がある領域は官民で協調して整備していくという分担も必要でしょう。データ整備全体の思想や戦略について、議論を深める必要があります。

また、ユースケースに関しては、技術開発と事業化がうまく連結しないケースも見受けられます。ユースケースが先進事例で終わらず、一般化・普遍化するためには、今後はマーケットデザインとテクノロジーの両輪が噛み合ったユースケースが求められると考えています。

— データの収集・蓄積という観点では、国土交通省による「不動産情報ライブラリ」があります。

**桐谷氏**：日本にはところ狭しと不動産がありますよね。そして、データを整備すれば周囲の人々にすぐ便益があるはずです。

例えば、ビルのテナント情報やEVの充電ポートの有無、ドローンが着陸できる場所はあるかなど、地図に入れられる情報はまだまだあります。ドローン宅配をするなら3D化も必須ですよね。そういったところを国がやるのか、民間でやるのか、官民協力でやるのか、不動産だけでも、非常に多くのテーマがあります。

**墳崎氏**：官と民という立場の違いはありますが、ハイブリッドでやっていくのがこれから時代だと思っています。官か民か、ではなく、官も民も総力戦の時代です。

スタートアップの皆様はじめ民間の方々とともに、引き続き、国の基盤づくりを進めていきたいと思います。未来に希望がもてるお話をいただきました。

**桐谷氏**：地理空間情報の利活用は絶やしてはいけないムーブメントですので、官民間わず、当社と連携できそだと感じた方は積極的に声をかけていただきたいと思っています。

— 本日はありがとうございました。



地理空間情報×アイデアで描く新しい未来

# イチBizアワードとは

## 開催趣旨

「いつ、どこで、何が、どのような状態にあるか」——地理空間情報とは、人やモノ・コトの位置や時間に関する情報を指します。スマートフォンの地図アプリやナビゲーション、地域のハザードマップなどのサービスは私たちの生活に欠かせない存在となっています。

近年、この地理空間情報は大きく進化しています。リアルタイムで更新されるデータや高精度な測位情報が整備され、これらの活用による課題解決や新サービスの創出に向けた可能性が広がっています。

こうした取り組みを進めるには、技術者だけでなく、異なる業種やバックグラウンドをもつ人々の参画が不可欠です。そこで内閣官房は2022年度から「イチBizアワード」を開催し、地理空間情報を活用したアイデアを広く募集しています。これまでに、農業の効率化、土地利用

の高度化、気候変動への対応、子育て支援、文化財の保全など、幅広いテーマで提案が寄せられています。

その中で最優秀賞を受賞したアイデアは、すでに事業として展開され、各分野で活躍しています。

2025年度の「イチBizアワード」では、従来のビジネス部門・アイデア部門に加え、国土交通省と連携し「不動産情報活用部門」を新設しました。本冊子では、3つの部門の一次選考を通過したアイデアをp.7~10で紹介しています。この中から受賞アイデアが選ばれ、2026年1月30日に開催されるG空間EXPOで表彰されます。

私たちの未来を形づくる多彩な「イチアイデア」——ぜひご注目ください。

## 各部門紹介



### ビジネス部門

具体的なビジョンとビジネスプランに基づき、事業化や事業のさらなる発展を目指すビジネスアイデアを募集



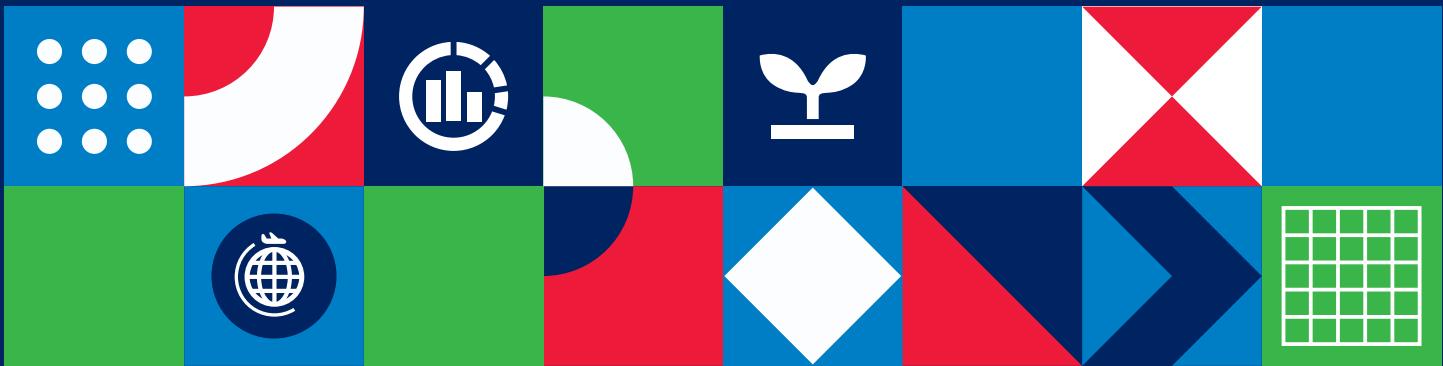
### アイデア部門

「あつたらいいな」と思うちょっとしたアイデアなど、未来へのポテンシャルを持つ自由な発想からのアイデアを幅広く募集



### 不動産情報活用部門 【国土交通省連携企画】

国土交通省が運営する「不動産情報ライブラリ」(<https://www.reinfolib.mlit.go.jp/>)で提供する、取引価格、都市計画、防災情報など不動産に関するオープンデータを活用したイノベーションやアイデアを募集



# イチBizアワード 2025

## 一次審査通過アイデア紹介





## ビジネス部門

02

### 位置情報を活用した埋蔵金DX

櫻原 崇雄

終活で寄付や埋蔵金を残したいという想いを、地理空間情報を活用した宝探しの枠組みで実現。アプリで答え合わせを行い、成功した参加者に報酬を贈呈する位置情報エンタメを提供。

04

### 衛星測位のその先へmoegiが描く 位置情報ビジョンの活動と未来

株式会社moegi 片寄 里菜

位置情報管理ソリューション「CALINT」に準天頂衛星みちびきを活用し、山間部や通信圏外での高精度な位置情報取得を実現。災害対応やインフラ管理等で安全性を確保し、作業効率の向上に寄与。

06

### AR(拡張現実)作業補助アプリにCLAS・MADOCAP-PPP連携機能を追加し、アプリの活用領域拡大を目指す事業

株式会社Root 岸 圭介

AR作業補助アプリに「みちびき」のCLASとMADOCAP-PPPを連携。海上で取得した高精度位置情報を活用し、海洋環境を見える化することで漁業・養殖業の作業効率化と安全確保を目指す。

08

### 学区検索サービス

佐藤 和希

自治体ごとにフォーマットの異なる学区データを統一し、全国の公立小中学校の学区を地図で統合・可視化。引っ越しを検討する人などが、学区情報をひと目で確認できる環境を提供。

10

### みちびきCLASを活用した自動走行AI地中レーダロボットによるインフラ点検・災害調査の刷新

ディープセンシング、仙台高専 園田 潤

地中レーダのAI画像識別と「みちびき」CLAS自動走行を組み合わせ、誤差10cm以内で地中物体の位置を3次元で特定。河川堤防調査や震災行方不明者捜索等の省力化と二次災害防止に貢献。

12

### みちびき衛星・CLASを活用した位置誘導植栽機の林業現場での実装、および植栽位置データの蓄積とその後の活用

有限会社大坂林業 中村 隆史

「みちびき」CLASの高精度測位を活用し、事前マーキングや測尺作業といった植栽作業を省力化。作業人数を半減させ、再造林コストの約40%削減と林業現場の労働力不足への対応を目指す。

01

### 歩いてミッケ!「見る旅」から「育む旅」へ。地理空間情報を活用した観光公害ゼロツーリズム～景観維持&多文化共生モデル～

浅野 徳一

まち歩きイベントで参加者から収集した地理空間情報を景観維持管理に活用するだけでなく、日本文化の学習機会も提供。観光公害ゼロの持続可能な観光モデルの実現を目指す。

03

### 駐車場データで観光地の オーバーツーリズム問題の解決に挑む!!

パーキングサイエンス株式会社 井上 直也

駐車場データを活用し、インセンティブも提供することで、観光中心地への自動車流入を抑制。オーバーツーリズムの課題解決とともに、地域ポイントとの連携により地域経済の活性化にも寄与。

05

### Check A Roots 歴史人物から現代までつなぐオープン家系図

NPO法人Check 金子 健二

戸籍や古文書が保存期限後に廃棄される課題に対し、地域の人物の出生地、居住地、移動履歴を年代ごとに地図に可視化。誰もが編集可能にすることで、家族史・地域の歴史を皆で継承することが可能に。

07

### 共有地図LivMapを用いた汎用・安価な フィールド業務DXへのパラダイムシフト

株式会社はんぱさき 小林 俊仁

共有地図LivMapを通じ、現在位置・軌跡・地点メモなどを地図に落とし込むことで、チーム内に現場情報を即時共有。小規模組織でも導入しやすい料金設定で、あらゆるフィールド業務のDXを支援。

09

### 【スマート漏水検知AIシステム】 音×衛星データ×AIによるインフラDX

Hmcomm株式会社 白井 秀範

AI音響解析技術と衛星データを組み合わせ、漏水箇所を非破壊で高精度に特定。職人が漏水確定調査に専念できるようにすることで、持続可能なインフラ維持管理の実現を目指す。

11

### 「ROOV.space」住民参加型3Dで 合意形成を加速するプラットフォーム

株式会社スタイルポート 長田 麻子

Webブラウザ上に街のデジタルツインを構築。竣工前の建物などを再現し、「未来の街」を体験できるようにすることで、住民参加型のオープンで民主的なまちづくりの実現を目指す。

13

### Fish Trace 地理空間情報でつなぐ 「水揚げから食卓まで」の水産トレーサビリティ

株式会社ZIFISH 中村 元

GPS情報・AI魚種判定・RFIDタグを組み合わせ、漁獲時から消費者の手元に届くまでの全工程をリアルタイムに追跡。AI画像処理による個体識別で改ざんを防止し、食の安全性・信頼性提供を目指す。

**14 「次の一手」を支援する  
AI駆動型パーソナル防災アクションアプリ****野々村 望**

気象情報・避難施設情報・生体情報・位置情報をリアルタイムで統合し、個人に最適化された防災アクションを提示。雨雲レーダーとタクシー位置情報を連携した予測型デマンド配車も構想。

**16 GNSSを補完する新インフラ  
隠れビーコンを利用したCo-Co-Desシステム****サイトセンシング株式会社 平林 隆**

電子機器が発するBLE電波を「隠れビーコン」として測位インフラに活用。歩行者自律航法(PDR)や気圧計も組み合わせた測位によって、リアル空間での人々の位置・移動実態の把握を実現。

**18 地域で支える見守りプラットフォーム 高齢者参加型  
地理空間データで創る次世代見守りエコシステム****山本 力弥**

安価なIoTデバイスによる歩行データの収集と収集データによる動的リスクマッピングを通じて、高齢者の転倒多発地点や危険箇所を可視化。安全ルートを提案し、転倒事故削減と自立した外出を実現。

**15 ダンプトラックのテレマティクスデータ活用で実現する  
災害対応—平時は現場を支え、有事は命を救う—****株式会社MIEZ 福田 聰**

運行管理システムで車両情報や運転手情報等のテレマティクスデータを蓄積。蓄積したデータを活用することで、平時の建設業務を効率化するだけでなく災害時には初動対応時間の短縮を目指す。

**17 営農指導支援プラットフォームSATSOIL  
～地上の限界を宇宙の可能性で切り拓く～****株式会社SATSOIL 三田 琳太郎**

衛星データを含む多層的地理空間情報を統合解析し、土壤診断を効率化。科学的な施肥設計に必要な期間とコストを削減し、化学肥料使用量の低減と営農指導の高度化を目指す。

**19 花粉ゼロ街づくり  
～地理空間情報を活用した花粉症対策インフラ～****横井 源**

植生・気象・医療・市民報告データを地図上で統合し、花粉の全体像を可視化。自治体の広域連携を可能にすることで、効率的な花粉対策の提供につなげるとともに、対策の効果定量化を目指す。

**01 ラストワンマイルを短縮する  
“動くバス停”の社会実装モデル****井下 敬翔**

従来の固定バス停留所をなくし、地理空間情報を活用して歩行負担や危険の少ない乗降場所を柔軟に設定。現行車両と運用改善で、安全かつ効率的な移動を実現し、地域交通の利便性向上を目指す。

**02 メタバースGIS  
～メタバースの地理空間情報技術を進化させる～****株式会社NTTデータCCS 今井 淳**

メタバース住所をジオコーディングし、プラットフォーム連携で利便性を向上。また、人流と構造物位置をリアルタイムに最適化し過疎化を防止するなど、メタバースの課題解決に地理空間情報を活用。

**03 命の温度プロジェクト  
～命をまもる熱中症リスク度マップ～****岡田 俊樹**

衛星データと地域データをAIで解析し、リアルタイムに熱中症リスクを地図に可視化。自治体や学校への的確な注意喚起や日常のリスク判断に活用が可能。また、防災・都市設計への活用にも期待。

**04 オタク×推し活×地理空間情報=?****菊田 洋一**

推しごとの地図レイヤーをフォローし、イベント会場や物販列の最後尾などの位置情報を投稿・閲覧できる推し活マップ。地図で場所を直感的に把握し、ファン同士でリアルタイムに情報共有が可能に。

**05 Green Flow:信号待ちゼロを実現する  
AI駆動型シームレスナビゲーション****佐々 喬音**

AIがGPS・信号サイクル・交通センサーデータを分析し、待ち時間最小のルートと青信号に合わせた最適速度を提示。信号待ちを減らし、移動時間短縮・燃費向上・CO2削減・ストレス軽減を目指す。

**06 偽装できない位置情報で守る  
次世代モビリティ社会****株式会社デジオン 末藤 和佳子**

「みちびき」の信号認証技術を応用し、自動運転車やドローンのログに改ざんできない位置証明を付与。位置情報の改ざんを防ぎ、移動経路や離発着地点の真正性の保証により、安全な次世代モビリティ社会へ。

**07 あなたの“生活ルート”でリハビリを  
～日常導線を活かしたリハビリの新しいかたち～****杉野 真珠**

居住者の屋内3Dスキャンデータと屋外地理空間情報を統合し、リハビリの生活導線をデータ化。リハビリ計画の作成に活用するだけでなく、生活上のリスク箇所を可視化することで、安全なリハビリを支援。





08

**Otoneマップ（オトーンマップ）  
—音を集めて作る、新しい地図—**

宮城大学太田研究室チームB 武部 ゆう

スマホで周囲の音を録音し、アプリが音量や特徴を解析して地域の静かな場所や騒がしい場所を地図に可視化。騒音情報の可視化により、近隣トラブル解消や企業の環境対策、観光地整備などに活用可能。

10

**圃場廃棄ゼロを目指して 新たな野菜販売  
～実習を通じて感じた、あつたらいいな～**

太田市立太田高等学校 長谷川 琴音

全国の農家が栽培中の野菜や豊作・不作、規格外品の情報を書き込み、共有する全国農家マップを作成。農家と販売者が情報を共有することで、店舗は効率的な仕入れを実現し、圃場廃棄ゼロを目指す。

12

**運転の未来を変える模擬運転システム  
～3D空間×AIで創る、安全・安心な未来～**

皆川 舞衣

3D都市モデル「PLATEAU」と運転シミュレーションを組み合わせ、仮想空間でリアルな運転体験を提供。初心者や観光客が事前に道路状況を把握し、安全運転を促進、交通事故の減少を目指す。

09

**野生動物地図AI「KUMap」—誰でも使える、  
地図と会話する野生動物対策システム—**

長谷川 一輝

衛星データや目撃情報、地形データをAIが解析し、野生動物遭遇リスクの予測が可能。さらに、全国の対策情報を学習したチャット型AIに質問するだけで、効果的な対策を知ることも可能に。

11

**スマート除雪マップ：  
G空間データで除雪状況をリアルタイム可視化**

新潟医療福祉大学医療情報管理学科 市川ゼミ 樋口 真城

3D都市モデル「PLATEAU」による建物影と降雪情報の組み合わせで除雪計画を最適化。「みちびき」の高精度測位で除雪車両の位置と進捗を3D地図に反映し、市民がリアルタイムに作業状況を確認可能。

13

**AIジオタガー：局所的興味を都市の健康データに  
～ニューヨーダイバーシティ起点のG空間インフラ点検モデル～**

宮崎 英一

ASDの特性を活かし、微細なインフラ異常をスマホで撮影し位置情報を付与。AIが解析し自治体のGISデータと統合して修繕優先度を提示し、自治体の点検効率化と多様な認知特性を活かした雇用を実現。

01

**災害時のオフライン下で、「非常用無線とAI」を用い  
避難所間の情報を伝達。効率的な避難所運営を実現。**

株式会社日本AIコンサルティング 池田 香保

災害時のオフライン環境において、事前にダウンロードした不動産情報ライブラリの防災・施設データを活用し、エッジAIが避難所の状況を整理・統合して地図上に可視化。避難所運営の効率化を目指す。

02

**地図太郎Lite×不動産情報ライブラリによる  
“地域をデータで学ぶ”教育プロジェクト**

東京カートグラフィック株式会社 石川 泰正

中高生が都市計画を視覚的に学べる教材として、教育用GISツール「地図太郎Lite」と不動産情報ライブラリを連携。地域構造や課題を読み解く学習を提供し、地理的思考力と情報活用能力を育成。

03

**でべごっこ**

株式会社くわや 桑原 遼介

不動産情報ライブラリの都市計画決定GISデータを活用し、建築計画における情報確認から与件検証までを一括自動化。確認・検証工程の時間を約80%削減し、業務内製化を推進。

04

**地理空間データと独自開発AIをデジタルツイン上で  
統合・解析 ～まちづくりのデジタル産業インフラ～**

つくるAI株式会社 新谷 健

不動産情報ライブラリに加え、地番・3D都市モデルなどのオープンデータを統合。独自開発の建物生成AIで建築可能な3Dモデルを迅速に生成。建築設計士が数日要していた作業時間を大幅に削減。

05

**My Second Act：人生100年時代の「終の棲家」を  
最適化するAIコンシェルジュ**

山本 祐貴

移住や住み替えを検討するシニア層が、医療・コミュニティ・災害リスク等の希望条件を入力。AIが不動産情報ライブラリのデータを活用・分析し、ライフプランに合った地域や物件をランキングで提示。

アイデアは応募者名の50音順で掲載。複数名での応募アイデアは代表者名を記載



「イチBizアワード2024」最優秀賞 株式会社ハタケホットケ

## 位置情報を活用して、水田の除草を自動化! 水田雑草対策ロボット「ミズニゴール」

毎年、幅広い発想が集まる「イチBizアワード」。

昨年度の「イチBizアワード2024」では、稲作における大きな負担である除草作業に着目し、革新的な解決策を提示した株式会社ハタケホットケが最優秀賞を受賞しました。本稿では、アイデア誕生の背景、地理空間情報の具体的な活用方法、そして受賞後の取り組みまでを詳しく紹介します。

### KEY POINTS

- ▶ 有機米栽培の最大の課題「草取り」を自動化するため、GNSS技術を活用
- ▶ 準天頂衛星システム「みちびき」の高精度測位サービスCLASで位置精度を確保
- ▶ 従来90分かかっていた除草作業を、自動運転でわずか5分に短縮

「テクノロジーで農業をもっと楽しく!」を掲げ、2021年に設立されたアグリテックベンチャー・ハタケホットケ(代表取締役:日吉有為)。

「日本を持続可能で世界一安全な食の生産国に」というミッションのもと、同社が開発したのが「**水田雑草対策ロボット ミズニゴール**」です。



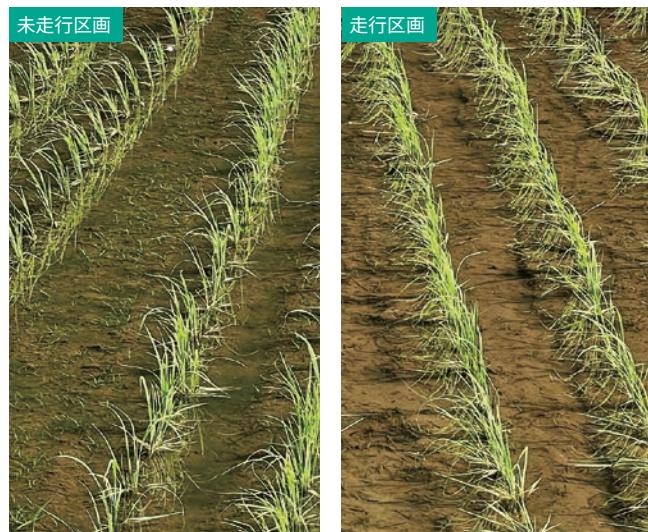
ハタケホットケが開発した「水田雑草対策ロボット ミズニゴール」(2025年モデル)

気候変動対策としてCO<sub>2</sub>排出削減が求められる中、農業現場でも化学肥料の使用を減らす持続可能な仕組みが模索されています。しかし、日本における有機・無農薬農業の割合は総生産量のわずか0.7%、有機JAS米に至っては0.1%程度にとどまっています。

環境にも人にもやさしい有機米を増やすにはどうすべきか——農業者でもあるハタケホットケ代表の日吉氏が着目したのは、有機米栽培の最大のボトルネックである「草取り」の自動化でした。農薬を使わず水田の雑草を除去するには人手による作業が不可欠で、この負担が普及を阻む要因となっていたのです。

そこで誕生した「ミズニゴール」は、準天頂衛星システム「みちびき」に対応したGNSS受信機を搭載し、田んぼを自動走行して水を搅拌、濁らせることで雑草の生育を抑制。さらに機体のブラシで物理的な除草も行います。2022年から実証を開始し、従来のチェーン除草で90分かかっていた作業を、GNSSによる自動運転でわずか5分に短縮(ラジコン操作では15分)することに成功しました。

開発以来、改良を続けている「ミズニゴール」は、2024年にGNSS自動運転型モデルの提供を開始。2025年モデルでは従来モデルで対応していた衛星測位補強サービス「CLAS」に加え、自動運転制御や磁気コンパスの精度を改善し、位置情報の精度を向上させています。さらに2026年には、2025年シーズンのデータを反映した最新モデルの量産化を計画。本格的な事業展開に向け、着実に歩みを進めています。



田植え後26日目。走行区間の稲の間には雑草がないことがわかる

特別インタビュー

# 地理空間 情報を使って やさしい未来を つくろう!

イチBizアワード2025  
スペシャルソポーター

アルテミス  
月女神 イチ



今年で4回目を迎える、地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード2025」。毎年、地理空間情報を活かしたさまざまなアイデアが応募され、本アワードからは、企業との共創や、ビジネス化が進んでいるアイデアも生まれています。

そんな本アワードで今回、スペシャルソポーターを務めるのは300年後の未来から現代の地球にやってきた、月生まれのVTuber・月女神イチさん。現代の地球の宇宙開発・宇宙ビジネスを学ぶ傍ら、ソポーターになったことをきっかけに地理空間情報も学びはじめたイチさんに、地理空間情報の魅力と可能性を聞きました。



特別インタビューのゲストにはイチBizアワード2025  
スペシャルソポーターの月女神イチさんにお越しいた  
きました。イチさん、よろしくお願いします。



みんな～、おはるなてい！300年後の未来からきた、  
新人宇宙飛行士VTuberの月女神イチです！



元気なご挨拶、ありがとうございます！まずはアワードの  
スペシャルソポーターとしての活動を教えてください。



はい！イチは宇宙開発について学ぶため、今まさに転  
換期を迎えてこの時代にやってきました。「VTuber  
(バーチャル・ユーチューバー)」としてYouTubeでのラ  
イブ配信のほかに、宇宙イベントの司会やアンバサダー  
などを務めています。

イチBizアワード2025のスペシャルソポーターとして

は、配信でアワード事務局の方に今回の取り組みや地  
理空間情報を紹介していただいたら、地理空間情報と  
とっても関係の深い準天頂衛星システム「みちびき」の  
アンバサダーであるロケットアイドルVTuberの宇推くり  
あさんと一緒に、地理空間情報の活用アイデアを考えた  
りしました。

そして、「月女神イチ賞」という特別賞もご用意いた  
だいたので、今は皆さんの応募アイデアを拝見しながら、頑  
張って審査しております！（インタビュー実施は11月）



300年後の月から現代の地球に来たイチさんですが、  
地図や地理空間情報の技術を見てどう思いましたか？



イチは、ちょっと方向音痴なところがあるので、お出か  
けのときは地図アプリに頼りっぱなしです…。位置情報  
がわからなかつたら、イチどうなっちゃうんだろう…。

歴史を勉強すると、大昔の船乗りさんは海に出て目的地に向かうのに、北極星を目印にしていたじゃないですか。それがコンパスを使うようになって、海図ができる、今では衛星で船の位置がわかるんですよね。地理空間情報にはいろんな種類があるけど、離れた場所に安全に移動するための測位技術はとっても重要なものだと思います。

それから、地図アプリは位置が正確にわかるだけじゃなくて、お店の口コミや感想を共有できたりしてコミュニティの場にもなっていますよね。現代の街には、地域のお店を紹介する「地図看板」があって、デジタル技術が発達する前から、アナログでも同じようなことをしていたのはなんだか素敵だなと思ってます。知らない街をお散歩するときは、看板の地図を眺めているだけで楽しくなっちゃうんですよね。

Q サポーター就任をきっかけに地理空間情報の勉強を始めたとお聞きましたが、一番印象に残ったことは何ですか？

地理空間情報って、すごくやさしい技術だなあと思います。

災害の早期発見・避難支援や、子育て・介護がしやすいまちづくり、それから、農家さん・畜産業の担い手不足の対策とか。ビジネスで注目される「データ活用！効率化！」みたいな用途も魅力的だけど、同じ技術が人にやさしい使い方もできると知って、イチは嬉しくなりました。

Q 特別賞「月女神イチ賞」の審査状況はいかがですか？

インタビューが始まる直前まで審査していて、頭から煙が出ちゃいそうですが、とにかく楽しいです!! どのアイデアも、応募された方の暮らしや思いが見えるようで、地理空間情報はみんなの生活に結び付いた技術なんだな～って感じます。

地域の名物を活かしたアイデアもあって、地域密着型のイチBizアワードがあちこちの都道府県で開催されたら楽しそうですよね。それから、応募者の年齢もすごく幅広いのもビックリです。小学生からのアイデアもあって、拝見したときには、イチとはレベルが違います！と思っちゃいました(笑)。皆さんのアイデアを見て、感動したり楽しくなったりしながら審査しています！

で、ちょっと恥ずかしいけど、イチは「大好き」って気持ちが伝わってくるようなアイデアに月女神イチ賞をお渡ししたいな、って思っています。応募者さんが自分のアイデアに愛情をもつてることはもちろんんですけど、そのサービスや技術を通じて、自分の大好きな人が今よりもっと楽しく毎日を過ごせるように、大好きなものがもっと輝くようになる、「大好き」の輪を広げられるようなアイデアを選ばせていただくのが、今回のイチの役目かな。

Q どんなアイデアが受賞するか、楽しみですね。最後に、地理空間情報に興味がある方へのメッセージをお願いします！

このインタビューを読んでくれているのは、G空間EXPOにいらした方ですよね。

すでに地理空間情報に興味をもっていたり、お仕事で活用されている皆さん、次のステップとして、ぜひ地理空間情報の輪を広げていきましょう！みんなでこのやさしい技術をもっと活用して、誰もが楽しく毎日を過ごせる未来をつくっていきたいなって思います。

地理空間情報は本当にありとあらゆる分野にかかわるので、イチもVTuberとして、いろんな人の「好き」と地理空間情報がかかわっているんだよ！っていうことを伝えていきたいです！

と、ということで。これにてインタビュー終了！次はイチの配信でお会いできたら嬉しいです。オーバー！

新人宇宙飛行士VTuber



YouTube:「月女神イチ Artemis ichi ch.」

<https://www.youtube.com/@ArtemisIchi>

毎週火・木曜日にライブ配信



「イチBizアワード2025」関連のアーカイブ動画はこちらから！

月女神イチの宇宙さんぽ #94

【イチBizアワード2024年度 協賛企業賞受賞  
株式会社Quick 武田淳宏さん】

<https://www.youtube.com/live/CwY-Zz9bBeM?si=UDSokl8vujWq4eaD>



月女神イチの宇宙さんぽ #103

【宇推くりあ先輩がゲスト イチBizアワード×みちびきコラボ】

<https://www.youtube.com/live/wT3VVb3ynal?si=ebnUaNLrsxVtFBjq>



## 協賛企業一覧 (協賛プログラム別 五十音順)

### Gold



LOCATIONMind

### Silver

アジア航測株式会社

AEROTOKYO

esri ジャパン

SCSK

国際航業

準天頂衛星システムサービス株式会社  
Quasi-Zenith Satellite System Services Inc. (QSS)

ZENRIN

ニトリ  
NITORI

PASCO  
Surveying the Earth to Create the Future

### Bronze

Intercity  
Innovation  
Institute

DigitalBlast

## 協力団体・自治体 (五十音順)



KOSEN  
國立高等専門学校機構

FIACS

静岡県

一般社団法人  
北海道産学官研究フォーラム  
Hokkaido Industry, Academy and Government Research Forum

三重県

META  
Tourism

LOCAL  
INNOVENTURES

## 協力府省庁

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局／内閣府宇宙開発戦略推進事務局／総務省／  
文部科学省／農林水産省／経済産業省／国土交通省／環境省

イチBizアワード 地理空間 × ミライ



<https://g-idea.go.jp/2025/>